

# 会社経営の現状及び今後の戦略について

交通政策審議会 航空分科会 資料

スカイネットアジア航空株式会社

平成18年11月29日

---

# 会社概要



商号 : スカイネットアジア航空株式会社  
( Skynet Asia Airways Co., Ltd.)

主要株主 : (2006年3月現在)

主要業務 : 定期航空運送事業

設立 : 1997年7月3日

資本金 : 38億6870万円 (2006年3月現在)

代表者 : 藤原 民雄

本社 : 宮崎県宮崎市大字赤江字飛江田148

就航路線 : 宮崎－羽田線 1日6往復  
熊本－羽田線 1日6往復  
長崎－羽田線 1日6往復

保有機材 : ボーイング式737-400 型機  
(総保有機数:6機)

従業員数 : 540名 (2006年4月現在)

	所有株式数	割合
株式会社産業再生機構	50,100	41.96
全日本空輸株式会社	17,900	14.99
米良電機産業株式会社	14,000	11.72
宮崎県中小企業ファンド投資事業 有限責任組合	4,000	3.35
スカイネットアジア航空支援持株会	2,642	2.21
米良光典	1,529	1.28
株式会社宮崎銀行	1,400	1.17
三井住友海上保険株式会社	1,000	0.83
雲海酒造株式会社	1,000	0.83
株式会社宮崎太陽銀行	800	0.67
計 (発行総数119,374)	94,371	79.05

1997年	7月	パンアジア航空株式会社を福岡にて設立
1999年	8月	スカイネットアジア航空株式会社へ商号変更
2000年	9月	本社を宮崎に移転
	10月	宮崎県議会が支援を決議
2002年	2月	国土交通省に航空事業許可を申請 ボーイング737-400型 1・2号機導入
	5月	国土交通省より航空運送事業許可を取得
	8月	宮崎-東京線就航
2003年	8月	ボーイング737-400型 3・4号機導入 熊本-東京線就航
2004年	6月	株式会社産業再生機構からの支援決定
	8月	ボーイング737-400型 5号機導入
2005年	6月	全日本空輸株式会社と業務提携
	7月	ボーイング737-400型 6号機導入
	8月	長崎-東京線就航
2006年	4月	全日本空輸株式会社とのコードシェア開始
	8月	ボーイング737-400型 7号機導入 (3号機入換え)
	9月	ボーイング737-400型 8号機導入 (4号機入換え)

# 会社経営の現状

## 事業規模（提供座席キロ）

2002年に新規航空会社として宮崎線就航以来、2003年に熊本線、2005年に長崎線に就航しこの5年間に提供座席キロベースで約4.7倍の事業規模拡大を行った。

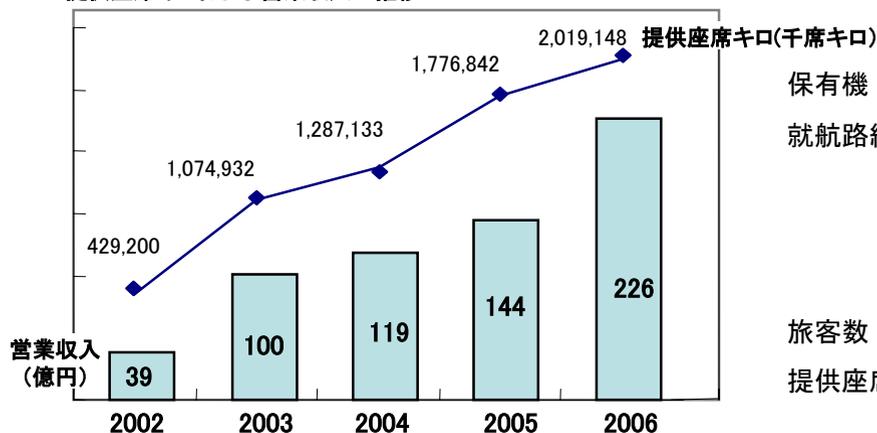


## 営業収入

事業規模拡大の効果により営業収入は約5.8倍に増加した。



提供座席キロおよび営業収入の推移



- 保有機 B737-400 6機
- 就航路線
  - 羽田 ⇄ 宮崎 6往復 (2002年8月～)
  - 羽田 ⇄ 熊本 6往復 (2003年8月～)
  - 羽田 ⇄ 長崎 6往復 (2005年8月～)
- 2006年4月よりANAとコードシェア開始
- 旅客数 1,539千人(2006年度見込み)
- 提供座席キロ 2,019,148千席キロ(2006年度見込み)

# 会社経営の現状(2)

## 費用

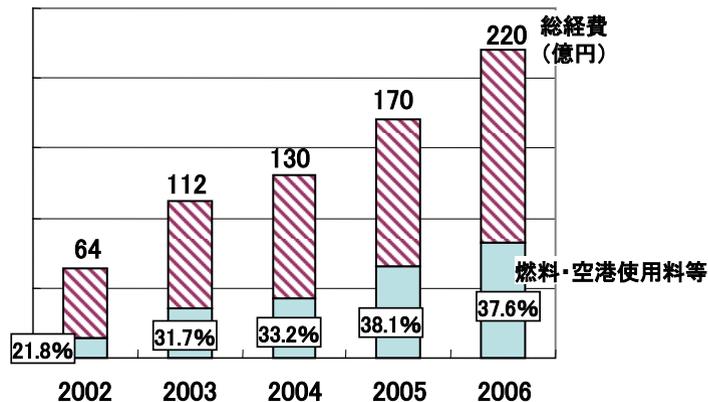
事業規模拡大による営業収入に対して、総経費の増加は3.4倍程度となっており、事業拡大によるスケールメリットによる総経費の削減効果も現れている。



しかし、近年の航空燃料の高騰により、経営改善の効果が半減され、経営を圧迫している。特に総経費における、燃料費、空港使用料の占める割合は40%近くに達し、経営に大きく影響を及ぼしている。



総経費および航空燃料、空港使用料等の推移



## 今後の戦略及び路線展開

既存3路線の安定化が現時点での最大の課題であるが、旅客需要の動向と地域経済への貢献等を踏まえて、将来的には新規路線の展開を目指す。

## 今後の機材構成・投入計画

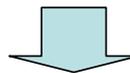
2006年度経営計画に盛り込んだ機材の入換えにより運航の安定化を図った。  
現在、暫定的に予備機を2機保有し以前より、安定した運航を行っている。

今後も現在使用しているB737クラスの航空機を使用した、多頻度運航によるLCCスタイルを考えており機材の大型化は検討していない。

また、新たな機材の追加については2007年度中の展開を目処に検討。

現状

B737-400(150席) × 6機



今後の計画

B737 × 7機体制 (2007年度中にプラス1機(時期未定))

## 新規航空会社の羽田空港における定時運航への配慮

羽田空港における離発着混雑により、連日遅延が発生し運航に影響を与えている。

特に新規航空会社では大手航空会社と異なり、ダイヤの運用による遅延回復の吸収力の幅が小さい為、配慮をお願い申し上げます。

## 羽田空港のボーディングブリッジの増設

羽田空港におけるボーディングブリッジの不足により、お客様をバスによる搭乗を余儀なくされている。何らかの改善をお願い申し上げます。